

<p>交流ニュース 第71号 2010年11月</p>	 <p>フレスタ Friendly Star</p>	<p>学園&地域交流ネットワーク 八幡西区折尾4-10-1 http://friestar.com info@friestar.com</p>
-------------------------------------	--	--

折尾駅周辺に「市民のための休憩と交流の広場」の設置を

8月末の「ゆめ広場」の閉鎖に伴い、それまでに運営していた「リサイクルバザー」の売れ残り品はおかげさまで全て新しい引き取り手のもとに納まることができました。ありがとうございました。

私たちは、「ゆめ広場」の閉鎖通知と併せて北九州市長や折尾開発事務所、JR折尾駅、北九州市営バス、折尾自治区会連合会などに対して、折尾駅周辺に「市民のための広場」を設置していただくようお願いしてきました。しかし残念ながら現時点ではこれに対する前向きな返答は来ていません。

このような現在の状況を見かね、「お好み焼き・さんさん」が、「旧・ゆめ広場」の入口に飲食ができる無料休憩所を設置されるとのことで、当会から長テーブルと椅子を提供しました。

新しい折尾駅と広場が完成するのは10年ほど先になる見通しですが、それまでの間も住民が利用できる「休憩と交流の広場」を、公的機関の音頭をもって設置していただきたいと思います。

赤煉瓦アーチ高架橋の進捗状況と、これからの保存活動について

先日より保存活用を呼びかけていた「6連・赤煉瓦アーチ橋」の折尾側3連の高架橋は、解体工事のため9月下旬より囲いがされ、もう二度と本物を見ることができなくなりました。

工事の手順は、まず、オリオンプラザと電車ビルの連絡通路が撤去され、次に白石書店の入っていたビル、そして12月から赤煉瓦3連の高架橋、最後に飲食店の入っていたビルになりますので、6連高架橋の全景を見たいという夢も叶わないようです。(奇跡が起き、高架橋が残らないかと願っています。)現在、壊した赤煉瓦を産業廃棄物にするのではなく保管をして、『場所の記憶』として活用していただきたいと思いますとお願いをしていますが、取り壊した時の状況によるとのことです。

希望は、「ねじりまんぼ」のある3連高架橋の保存活用を確定し、以前に壊された3連を含めた6連の高架橋があった場所に、今回壊す赤煉瓦を活用して、オブジェや歩道のデザインにして、創業当時の9連高架橋の全景がイメージできるようにすることです。

7月に、土木学会の要望書で明らかになったように、「赤煉瓦アーチ高架橋は、都道府県レベルの文化財の価値」があり、このように100年間も積み上げてきた歴史遺産が、それらを活かしたまちづくりの計画すら無く喪失していくことは、本当に問題だと思います。

年輪を経た古いものは、人間の心を癒す

大正3年、この西鉄電車赤煉瓦アーチ高架橋と同じ年に開業した「東京駅舎」は、創業当時の姿の3階建てに保全・復元計画が進行されています。更に、今年100年を迎える石橋の日本橋付近も、道路を地中化して、昔の面影を取り戻そうとしています。

高度成長の合理化で古いものを壊し、ゆとりのない生活が、現在のコミュニティの崩壊を招いてきました。「古い」と「汚い」は違います。「古いもの」を大切に、機能は新しい時代に対応させ、新しいものの中に融合させていくことが、街の魅力になり、文化になり歴史を刻んでいきます。

正に、人間社会と同じではないでしょうか！？

「学園&地域交流ネットワーク」は、これからも、「歴史遺産」や「先人の想いと知恵」を大切に、それらを将来に伝承していく、「人にやさしい街づくり」を目指して活動をしていきます。